

## 南スーダンでのスポーツを通じた平和構築

わかちあいプロジェクトでは、90年代に実施したケニアの難民支援事業の際、現地と共に活動した元難民のデイビッドさんがオーストラリアに移住後立ち上げたNGO「Peace Palette (ピースパレット)」に協力し、南スーダンの子どもたちを支える活動を行っています。南スーダンでは現在、仕事がなく行き場を失った若者が民兵となって戦地に身を投じることが問題となっています。そこでピースパレットは、スポーツを通して南スーダンに平和を構築しようと、2016年にS4P (Sport for Peace) というプロジェクトを立ち上げました。

このプロジェクトでは、平和構築のトレーニングと、バスケットボールリーグの設立という2つの事業を展開しています。

まず初めの活動として、2016年12月にピースパレットチームとトゥイク州のチームによるバスケットボールの親善試合が行われました。そして、2017年12月末には、トゥラレイで大会が開催され、近隣の4つの州の代表選

手48人が集まりました。3,000人以上の観戦客が集まる盛大な大会となり、3人の選手は「ノリアキMVP賞」という賞を受賞しました。この賞は、90年代にカクマ難民キャンプで、わかちあいプロジェクトのスタッフとして現地に駐在し、デイビッドさんと共に活動していた故高村憲明さんの名前を冠した賞です。次回開かれる第2回大会では、12才以下のチームも作られることになっています。

さらに、大会に参加した選手やバスケットボール協会、コーチに対し、平和構築のトレーニングを実施し、平和の意味、和解と寛容、紛争の原因、傾聴力、効果的なコミュニケーションなどをテーマに議論し、平和について学んでもらうことができました。

このトレーニングの参加者の1人は、「自分はバスケットボールをするためにイベントに参加しただけだから、想像していたバスケットボールの大会とは大きく異なっていたけれど、平和について学ぶ機会が得られてとても良



「ノリアキMVP賞」を受賞した選手

かった」と話しました。

このトレーニングの参加者が、学んだことを各自が住む地域に持ち帰り、新たな平和構築のリーダーとなってトレーニングを実施しています。このピースパレットがつくる平和の連鎖が、長引く内戦による憎しみの連鎖に打ち勝つことを願うばかりです。わかちあいプロジェクトはこれからもピースパレットの活動を支援していきます。



わかちあいプロジェクト

# わかちあいプロジェクト NEWS No.34

2018 December

## 思いをつなぐことの大切さ

松木 傑 わかちあいプロジェクト代表  
日本福音ルーテル教会引退牧師



私が属していますルーテル教会では、昨年は宗教改革500年で写真(左下)のパネルが各教会に掲示されました。「初めに言があった」(ヨハネ福音書1章1節)と記されています。しかし、この翻訳では何だか意味が理解できません。このような

聖書の翻訳にもどかしさを感じていた岩手県大船渡市出身の医師山浦玄嗣先生はギリシャ語原典から自分たちの東北地方の気仙方言で、「初めにあったの、神様の思いだった」と訳されました。心にすっと入ってきます。そうです。神様の思いで世界も創造され、私たちも生かされているのです。

私たちにおいても、思いがあってこそ、人との出会いがあり、ものごとが見えるかたちで実現していくのです。わたしにとってのその思いは、学生時代に起こった、ビアフラ戦争(1967年~1970年、現ナイジェリア連邦共和国)の飢餓により、150万人以上の方が亡くなったという出来事から生まれました。そこで「同じ時代に生きる者として、何か行おうべきだ」との“思い”を持ちました。それが現在の、わかちあいプロジェクトの、難民支援、自立支援、フェアトレードの活動につながっています。

11月6日のフェアトレード・ラベル・ジャパン25周年の集まりに招かれ、設立当初の話をいたしました。ここにも“思い”と出会いがありました。1993年2月、国際協力とフェアトレードについて学ぶため、ドイツのシュトゥットガルトで教会関係の団体を訪問し、そこでマルティン・クンツ博士にお会いしました。彼はおもむろに引き出しの中から、ロゴのデザインを取り出して、「これをコーヒーに付けるのだけど、どう思うか」と問いかけてきました。「コーヒーにロゴマークを付ける？」 私は意味が全然理解できません。これが最初のフェアトレード・ラベルとの出会いでした。

帰国後、ドイツのフェアトレード・ショップで購入したバスケット入り紅茶を輸入することにして、スタッセン・ジャパンのヘンリー・ダイアスさんの手配によって、最初のフェアトレード紅茶が1992年8月に日本に届きました。

そしてヘンリーさんの紹介で第一コーヒー株式会社の高橋一男社長にお会いし、フェアトレード・ラベルを日本で紹介したいと相談をして、メキシコの生産者ISMAMのオーガニックコーヒーのサンプルを手渡しました。すぐさま気に入ってくださり、日本最初のフェアトレード・ラベル認証コーヒー「カフェ・ママ」が、1993年の春に販売されることになりました。国際貢献したいという思いが、つながって今日があります。

今年も皆様のご協力により国際支援活動を実施することができました。引き続きご支援よろしく願いいたします。



ルーテル教会宗教改革500年のパネル



フェアトレードラベル組織(ドイツ)のマルティン・クンツ事務局長(右から2番目)との写真。右端が松木、中央で設立総会ポスターを持っているのが、フェアトレード・ラベル・ジャパン初代理事長でアジア学院名誉学院長の故高見敏弘先生。コーヒー缶を持っているのが、第一コーヒー(株)高橋一男前社長(左から2番目)

## わかちあいプロジェクトについて

フェアトレードや難民支援活動を通して、開発途上国の人々を支える国際協力NGOです。私たちは1992年にドイツを訪問した際にフェアトレードのしくみを知り、日本で最初の国際フェアトレード認証コーヒー(カフェ・ママ)の販売を開始しました。世界中から製品を取り寄せ、国内では最も多くの国際フェアトレード認証製品を取り扱っており、様々な地域の生産者の自立につながっています。また同じ頃、アフリカ・ソマリア難民救援をきっかけに継続的に難民支援活動に取り組み、現在までアジアやアフリカ、中東の難民生活を余儀なくされる方たちを支援しています。

- ① 国際フェアトレード認証製品の輸入、商品開発、販売
- ② 難民支援活動(古着支援、緊急支援)
- ③ 途上国の自立支援



活動の詳細はホームページよりご覧ください。  
<http://www.wakachiai.com/>

### 募金のご協力をお願いします

- ① 一般募金 (わかちあいプロジェクトの活動全般をサポート)
- ② 古着支援募金 (難民古着支援プロジェクト活動費等)
- ③ 難民支援募金
- ④ ミャンマー奨学金募金
- ⑤ 南スーダン支援募金 (Peace Palette活動支援)

#### 募金の送付先

郵便振替口座

一般社団法人わかちあいプロジェクト募金 00120-4-386390

(※通信欄に上記募金の種類をご記入ください)



わかちあいプロジェクトの  
フェアトレードオンラインショップ  
「Fair Select (フェアセレクト)」

お買い物で途上国の生産者の自立を支える  
フェアトレードをぜひご利用ください。

フェアセレクト

検索

わかちあいプロジェクトNEWS No.34 2018 December (年1回発行)

デザイン Design Convivia

発行元 一般社団法人わかちあいプロジェクト  
135-0001 東京都江東区毛利2-2-8誠和ビル  
TEL : 03-3634-7809 FAX : 03-3634-7808

# 難民古着支援プロジェクト

わかちあいプロジェクトでは、長引く紛争等により故郷へ帰れず避難生活を余儀なくされている人々を支えるため、日本からご寄付いただいた衣類を送る活動を1993年から行っています。

2018年度の第26回難民古着支援プロジェクトにお寄せいただいた衣類は、2017年度のおよそ1.5倍の8,934箱でした。これは40フィートのコンテナ10台分にもなる量です。皆様のご支援、ありがとうございました。

タンザニア連合共和国は近隣国から多くの難民を受け入れており、ブルンジ共和国との国境近くにあるムテンデリ難民キャンプには、未だ多くのブルンジ難民が生活しています。

古着は2018年12月現在、支援先であるタンザニアに届いており、男性用、女性用、子ども用に分類された後、現地の国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の調整を経て、タンザニアのブルンジ難民キャンプで平等に配布されることになって



います。配布の進捗がわかり次第、改めてご報告させていただきます。

来年度も、タンザニアでの難民古着支援プロジェクトを行う予定です。引き続き皆様のご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 2017年度難民古着支援のご報告

### ブルンジ難民キャンプでの配布

2017年度に実施した、第25回難民古着支援プロジェクトでは、5,991箱の衣類をご支援いただき、タンザニアのブルンジ難民キャンプに届けることができました。

ご寄付いただいた衣類は、現地パートナー団体TCRS (Tanganyika Christian Refugee Service) により、2018年4月末までに8,895家族44,207人に配布されました。難民キャンプでは、毎日同じ服を着ていると埃や細菌がついて病気になるやすくなってしまうほか、破れや穴のある服を着ていると気分が暗く沈んでしまいます。日本から届いた質のよい服は大変喜ばれ、難民の人々に希望を与えることができました。長い列に並んでようやく古着を手にとることができた人々は、大事そうに抱えて家族の元へ持って行きました。なお、難民支援のシリア・イラク事業が現地の事情により実施見合わせとなったため、頂いたご寄付の一部をタンザニアの難民支援に充てさせていただきました。ご支援いただいた皆様、ありがとうございました。

### 洪水の被害に遭った人々への配布

2018年4月、ケニア共和国との国境付近のサーム地区で、洪水による浸水被害が多数発生しました。洪水は雨季に大雨が長く降ったことで引き起こされ、5,000人以上の人々が被害を受けました。

この洪水の影響で学校は休校を余儀なくされ、子どもた

衣類を受け取るために列に並ぶ難民の人々



衣類を受け取り、笑顔を見せる女性



現地パートナーから洪水被害が遭ったサーム地区への受け渡し

ちは精神的にも大きな傷を負いました。また、多くの家と畑が浸水し、備蓄していた保存食が流されたため、食糧難にも陥りました。さらに、トイレの整備が追いつかず、コレラ等の感染症の流行も懸念されました。

洪水から逃れ、避難生活を送る住民に、2017年度にご支援いただいた200箱分の衣類を配布しました。ブルンジ難民キャンプでの配布用にご支援いただいた衣類でしたが、タンザニア政府からの要請もあったため、緊急性の高い洪水の被害者にも配布させていただきました。現地では生活のために必要なもの全てが不足しており、衣類の支給は大変喜ばれました。今後もわかちあいプロジェクトでは厳しい環境で暮らす方たちを支えていけるよう、活動を続けて参ります。引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

# ミャンマー教育支援 奨学金で14名の中高生を支援

わかちあいプロジェクトでは、2008年から現在に至るまで、継続してミャンマーの子どもたちに奨学金を支給しています。2018年度は4,000ドル（約45万円）を支援することができました。

支援の対象は、タイとの国境近くにあるカヤー州という山岳地帯に住む子どもたちです。険しい山岳地域の農村部に住む子どもたちは、自宅から離れた遠くの町の学校に行く必要があり、自宅から通うことができません。そのため、学校へ行くには寮生活をする必要があり、その費用を負担しなければなりません。

しかし、ほとんどが農家の子どもたちで、兄妹も多いことから経済的な余裕がなく、中学校や高校への進学を諦めざるを得ない境遇にあります。また、片親か

両親を亡くしている子どもたちも多く、奨学金なしでは勉強を続けられない子どもたちがたくさんいます。

わかちあいプロジェクトが支給した奨学金は、現地コーディネーターが小学校の成績や本人の意志をもとに選んだ14名の1年間分の学費に充てられます。

奨学金を受給するシャイモエさん（14）の両親は農業を営んでおり、お米やトウモロコシを作っています。しかし収入は少なく、シャイモエさんを学校へ通わせる十分な資金がありません。シャイモエさんの家族はもともとこの地域に住んでいたわけではなく、紛争から逃れるために国内を転々とし、国内避難民としてこの地に移り住んできました。シャイモエ

さんは勉強のために支援をしてきている日本のみなさんに感謝をしながら、教師になるという夢に向かって日々勉強に励んでいます。

ミャンマーの子どもたちが学校に通い続けられるよう、みなさまからのご支援が必要です。今後とも引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



シャイモエさん

奨学生の集合写真

## コーヒー栽培支援

ミャンマーでのコーヒー栽培支援は2008年に開始し、2015年度からはカヤー州のドービャク村とヤイブラ村、シャン州のペコン農園の3ヶ所で、森林農法や有機農法の技術支援と生産者組合設立支援を行いました。定期的に日本のコーヒー栽培の専門家や有機農法の専門家を派遣し、現地で指導を行うことで、コーヒー栽培技術の向上を目指してきました。

2016年には、地球環境基金の助成により、各国から農村指導者を招いて研修を行う学校法人アジア学院からも専門家を招聘し、各農園の土壌調査をしていただきました。

これらの専門家の方々のご支援により、種子や苗からの栽培、収穫、加工、販売という一連の作業ができるようになりました。2017年度にはドービャク村では500kgのコーヒーを収穫することができ、2018年に日本へ輸入されました。このコーヒーは「カヤーリーコーヒー」という名前前で現在わかちあいプ

収穫の様子



乾燥の様子



※ドービャク村はデモン地区、ヤイブラ村はブソ地区に位置しています。

ロジェクトのオンラインショップ『Fair Select』で販売中です。ミャンマーの空気をを感じるフルーティーな味わいで、年々美味しさが向上しています。

生産者組合を設立し、有機栽培によるコーヒー栽培技術を身につけ、現金収入を得られるようになるという当初

の目的を概ね達成したため、2017年度をもって専門家派遣の支援は終了いたしました。わかちあいプロジェクトではコーヒー豆の輸入販売を通し、引き続きミャンマーのコーヒー農家のサポートを行って参ります。今後とも応援よろしくお願い申し上げます。